

2017年9月23日 12:35～13:20

場所：岩手大学上田キャンパス C20

主催：領域7（運営委員）

議題目次

1. 優秀ポスター賞表彰式
2. 現領域代表、副代表、運営委員の紹介
3. 次期領域運営委員の紹介
4. 次期領域代表・副代表の選出・承認 [審議事項]
5. 次々期運営委員の選出・承認 [審議事項]
6. メーリングリスト運用に関して
7. ポスター賞および日本物理学会学生優秀発表賞について
8. 「共催シンポジウム」について
9. 関連会議・シンポジウムの紹介(※)
10. 次回大会について
11. その他

1. 優秀ポスター賞表彰式

領域代表・副代表・運営委員の経験者および候補者からなる17名に審査を依頼し、

- ・研究内容（研究の意義・新規制，妥当性）
- ・プレゼンテーション（ポスターの構成，伝わりやすさ）

+ポスター賞への推薦

の観点で審査を行った。

その結果、以下の3名を受賞者として選出し、表彰式を行った。

◆ 22aPS-10 山川 大路 （東大院新領域）

テラヘルツパルス励起によるk型BEDT-TTF塩のモット絶縁体－金属転移の研究

◆ 22aPS-23 馬田 裕章 （名大院工）

イオン液体ゲート下での共役高分子の金属絶縁体転移

◆ 22aPS-33 鬼頭 俊介 （名大院工）

放射光X線による分子性結晶の精密電子密度解析

2. 現領域代表、副代表、運営委員の紹介

●領域代表 : 岡本 博 先生 (東大院新領域)
(2017年4月～2018年3月)

●領域副代表 : 竹延 大志 先生 (名大院工)
(2017年4月～2018年3月)

●運営委員 :

2016年10月～2017年9月
近藤 剛弘 (筑波大)
井口 敏 (東北大金研)

2017年4月～2018年3月
中井 祐介 (首都大)
古川 哲也 (東京理科大)

3. 次期運営委員の紹介

任期：2017年4月～2018年3月

○分子性固体

中井 祐介 先生（首都大）

○有機導体

古川 哲也 先生（東京理科大）

任期：2017年10月～2018年9月

○分子性固体

石河 孝洋 先生（阪大）

○有機導体

中 惇 先生（早稲田大）

4. 次期領域代表・副代表の選出・承認【審議事項】

領域代表から、次期領域代表と副代表の候補者として以下の先生方がそれぞれ提案され、承認された。

●次期領域代表

任期：2018年4月～2019年3月

竹延 大志 先生（名大院工）

●次期領域副代表

任期：2018年4月～2019年3月

山本 浩史 先生（分子研）

5. 次々期運営委員の選出・承認【審議事項】

現運営委員から、次々期運営委員の候補者として以下の先生方が提案され、承認された。

任期：2018年4月～2019年3月

○分子性固体

毛利 真一郎 先生（立命館大学）

○有機導体

川相 義高 先生（理化学研究所）

6. メーリングリストの運用について

●現在の ML の状況についての報告があった

旧 ML から下記の新 ML へ完全に移行

ML アドレス: `bunyu4@r7.div.jps.or.jp`

ML のアドレス数上限: 1000

現在の登録アドレス数: 837 (9月4日現在)

現在、学会講演者のアドレスは運営委員が登録。

※お願い事項

- 卒業などで使われなくなったアドレスについて削除の連絡をお願いします。
- 転送先での送信エラーが頻発する方もいます。設定、容量等ご確認ください。
- 研究室 ML によって登録されているアドレスからは、`bunyu4@d7.div.jps.or.jp` への投稿はできません。投稿の必要がある場合には、ML に直接登録してあるメールアドレスをお持ちの方にお問い合わせするか、運営委員に直接、ご連絡をお願いします。

※添付ファイルはサーバーの性質上付けられない

7. 日本物理学会学生優秀発表賞について

運営委員、代表、副代表により要約した以下の内容が説明された

理事会の考え:

- ・「領域」の本来の目的である「プログラム上の区分」を超えて主体的に独自の賞を出すことは想定されていない。
- ・外部からの「賞」への問い合わせに対して、本部が責任を持った回答が不可能。
- ・学会本部が認識または把握していない「日本物理学会」と名の付く「賞」があることは、組織体として正常に機能していないと受け取られかねない。
- ・「日本物理学会(領域)」が付かない研究グループ等の独自の名称の賞は問題ない。

基本方針:

- ・学会が主体として「日本物理学会学生優秀発表賞」を制定
(実施するかどうかは領域判断でよい)
- ・本部から領域へ学生優秀発表賞の候補推薦を委託し最終決定は理事会が行う

必須事項:

- (A) 候補者選定プロセスを明確化
- (B) 学会本部が選定者(審査員)を把握
- (C) 学会本部が候補者名、受賞対象発表タイトル等を把握

規約について:

規約(案)について: (今大会の各領域の MI での意見を元に改訂される可能性はあります)

目的: 物理学会大会における若手の優秀な発表を奨励し、大会をより活性化するために本賞を設ける。

賞の名称・賞状: 日本物理学会学生優秀発表賞(Student Presentation Award of the Physical Society of Japan) 賞状は会長名において授与する。

対象: 物理学会正会員の内の大学院生または学生会員による各大会の学会発表(口頭およびポスター)を授賞対象とする。

授賞者の決定: 会長/理事会は、各領域に受賞候補者の推薦を依頼する。各領域は、附則(1)ー(4)により候補者を推薦する。推薦された候補者については、当該大会後の理事会において授賞を審議・承認する。

公表: 承認後、物理学会 web ページにおいて、受賞者名、受賞講演タイトル等を公表する。

時期: 2018 年秋季大会(※同志社大学)より授賞を始める

取消: 受賞者が本会の名誉を傷つける行為を行った場合、理事会は賞を取り消すことができる。

附則(1) 授賞人数等: 授賞人数は、本賞の趣旨を逸脱しない範囲で各領域毎に定め、領域によっては推薦者なしでも良い。

附則(2) 授賞規則・審査員：各領域は、受賞候補者決定の規則を設け、理事会に文書で事前に提出し、承認を受ける。候補者決定にかかわる審査員は学生でない正会員から選び、そのリストについても大会毎に事前に理事会に報告し、承認を受ける（当該セッション座長などの役職名のみでも良い）。

附則(3) 仮賞状の発行：各領域において、受賞候補としての推薦が決まった段階で、理事会の承認を待たずに仮賞状を発行することができる。

附則(4) 受賞回数：複数受賞は妨げない。

領域 7 のポスター賞に関して、下記の前回の実施報告内容を紹介（今回もこれに準じて行っている）、これらを学会本部に事前に提出することになるという説明、および、学生優秀発表賞との違い、について説明があった。

領域 7 ポスター賞

・目的：領域における若手研究者の研究成果に注目し若手研究者の研究意欲を盛り上げることを目的とする。

・賞の名称：日本物理学会領域 7 優秀ポスター賞

・応募資格：大学・大学院もしくは同等の機関に在学中の学生で、日本物理学会秋季大会において第一著者としてポスター発表を行う者。ポスター発表の研究の主要部分に寄与していること。大会の講演申込時にポスター賞応募を申し込むこと。過去に本領域での同賞の受賞歴がないこと。

・表彰件数：若干名。

・応募方法：応募期間は秋季大会への講演申込受付期間と同じとする。

発表形式のポスターの欄にチェックをし、200 文字の講演要旨入力欄の最初に「ポスター賞応募」と記入すること。

・審査方法：領域代表、副代表、及び領域運営委員がポスター審査委員会を構成する。審査委員会が、領域全体より審査員を選出し依頼する。審査員がポスターの審査を行い、その審査結果を審査委員会が集計・審議して、受賞者を決定する。

・募集方法：募集要項の「各領域からのお知らせ」に掲載するとともに、領域 7 ホームページおよび領域 7 メーリングリストを用いて周知を行う。

前回の実施報告内容

・審査委員の選定について：領域 7 優秀ポスターが一定の権威を持った賞となるよう、同賞の審査員については、世代の偏りを考慮したうえで、各分野において活躍している以下の研究者の中から審査委員会（領域代表、副代表、及び領域運営委員）が選出した。

① 現及び歴代の領域 7 代表、副代表

② 現及び歴代の領域 7 運営委員経験者、及び次期運営委員

③ 過去の日本物理学会領域7若手奨励賞受賞者

また、領域7は有機導体分野と分子性固体分野に大別されるが、審査員の分野割合がおおよそ1対1になるようにしてバランスに配慮した。

・**審査の採点基準**：審査については、ポスター講演者個人を表彰することを念頭に、研究の質の高さに加えて、ポスターの完成度、プレゼンテーションも重視し、以下の基準を設けた。

1. 研究の意義と新規性（目的は明確か。先行研究との比較は十分か。）
2. 実験・考察の妥当性（実験方法は適切か。結論を得るに十分なデータ・考察があるか。）
3. ポスターの完成度（ポスターがわかりやすく構成されているか。目的、方法、結果、考察、結論が明確に示されているか。）
4. プレゼンテーション（口頭説明は分かり易いか。質疑応答は的確か。異分野の研究者にも伝わるか。）

学会本部からの議論要望に対する返答

(Q1) 物理学会全体の賞として「日本物理学会学生優秀発表賞」を制定することについて

(A1) 学生に対して物理学会全体の賞を制定することは、非常に良いことであり賛成である。

(Q2) 各領域に候補者推薦をお願いする形式に対してのご意見

(A2) 賛成する。

(Q3) 特別な予算は用意しない予定ですが、仮賞状発行許可についてのご意見

(A3) 領域7では、当面はポスター発表を学生優秀発表賞の対象とする予定である。可能であれば、学会中のIMの冒頭で仮賞状を使った表彰式を行ないたいと考えている。そのため、是非、仮賞状の発行許可を頂きたい。合わせて、正式な賞状の具体的な文章を教えてください。仮賞状をそれに合わせて準備したいと考えている。また、仮賞状発行に対する援助（賞状、氏名等印刷費用）があるとありがたい。

(Q4) 上に述べたような形で賞を制定した場合、領域として受賞者推薦を行うかどうか

(A4) 行う。(現在領域7で行なっている学生のポスター賞を、学生優秀発表賞に移行する。)

(Q5) その他ご意見、疑問点

(A5) 正式な賞状は、日本語と英語の両方で書かれているようにするのが望ましい。(日本語、英語併記、あるいは、見開きの左右をそれぞれ日本語と英語、など形式は問わない。)

8. 「共催シンポジウム」について

領域代表から下記の共催シンポジウムについて説明があった。

物理学会では、様々な研究グループの研究成果を広く学会参加者に知っていただく機会として、大会中に「共催シンポジウム」というプログラムスロットを開設しました。

1. 開催形式：形式的には物理学会と当該研究グループとの共同開催になります。物理学会大会(年次大会, 秋季(春季)大会)中に開催され, 運用上は一般のシンポジウム(3時間半~4時間)と変わるところはありません。
2. 共催費：物理学会は, 会場・プロジェクト等開催インフラの確保, プログラム・看板による案内など, 運営一般を担当します。当該研究グループには, 運営の実費(共催費)をご負担いただきます。共催費の標準額は, 200,000円(消費税除く)です。
3. 共催シンポジウムの提案・審査：共催シンポジウムを開催するには, 一般シンポジウムと同じく企画に沿って提案書を用意し, 関係する領域の領域代表を通して提案をします。領域委員会において提案を審議し, 採択/不採択を決定します。一般シンポジウムでは, 特定研究グループの成果発表会となることを禁じていますが, 共催シンポジウムではこれを積極的に採択します。シンポジウムの中身, 会員の興味についての審査は一般シンポジウムと全く同等に行われます。
4. 採択後の手続：提案が領域委員会で採択されましたら, 研究グループは事務局と相談の上共催費を決定し, 共催シンポジウム申込書をご提出いただきます。
5. シンポジウム後：日本物理学会誌上にてシンポジウム報告をお願いいたします。

大会中の共催シンポジウム実施要領

2017年7月8日 日本物理学会理事会

本実施要領は, 物理学会秋季(春季)大会, 年次大会において日本物理学会と各種研究共同体(以下, コンソーシアムと略記)との共同で開催するシンポジウム(以下, 共催シンポジウムと略記)の実施についての概略を定める。

0. 開催の原則

物理学会大会のシンポジウム活性化, プログラム自由度の増大のため, 大会中に共催シンポジウム枠を設け, 物理学会の定める「学術的会合等の主催・共催・協賛・後援等に関する基本方針」に則り開催する。

1. 提案

- 1-1 共催シンポジウムの開催提案は, コンソーシアム側から物理学会各領域代表を通して行う。
- 1-2 領域代表は, 諸条件により提案を調整できる。領域間の合同開催も可能である。
- 1-3 コンソーシアム側で領域の選択に迷う場合は, 理事会から提案に適切な領域を斡旋することができる。

1-4 テーマに統一性や結合する理由があれば、複数コンソーシアムで1つの共催枠（大会シンポジウムの規定により原則 3.5 時間、最長 4 時間のセッション）を共有することができる。

2. 審議・採択

2-1 共催シンポジウム提案は、領域委員会において審議し採択/不採択を決定する。

2-2 採択条件：採択にあたっては、次の条件を勘案する。

A) 登壇者については通常のシンポジウムの制約を原則として課さない。

B) 但し、他シンポジウムとの重複登壇は特別な場合を除き許可しない。

C) 全体の時間など開催に関する原則は、通常のシンポジウムに準じる。

D) 1大会で開催できる共催シンポジウム数は、一般シンポジウム提案数にもよるが、原則 5 件までとする。

E) 「基本方針」に定める運営委員会の議事録は、領域委員会の報告をもって代用する。

3. 共催費

3-1 日本物理学会は、共催シンポジウムの開催にあたり、コンソーシアムから必要経費としての共催費を申し受ける。

3-2 共催費は、開催にかかる実費相当額を負担するものとし、標準額を1枠 20 万円（消費税抜き）とする。領域委員会にて提案採択後、コンソーシアムは速やかに共催シンポジウム申込書を日本物理学会へ提出し、共催契約を結ぶ。

4. 運営

4-1 日本物理学会は、共催シンポジウムの運営を一般シンポジウムと同様に行う。すなわち、プログラム編集会議にて日時・会場を決定し、物理学会大会のプログラム(印刷物、web、記録 DVD)に掲載する。座長の手配に関しても通常シンポジウムと同様に行う。

4-2 プログラム上の記載方法：シンポジウム一覧表には関係領域名の欄にコンソーシアム名が併記される。プログラムの上では、(コンソーシアム名)、(領域名) 共催シンポジウム：(シンポジウム名) と記載される。

4-3 コンソーシアム側でのポスター、ちらし、web、ML 等による周知は自由である。但し、聴講する場合は大会への参加登録が必要である。登録した参加者に対する追加聴講費は一切課さない。

4-4 シンポジウムの報告は一般シンポジウム同様、学会誌に掲載する。

その他、詳細については9月の学会誌の会告欄に掲載の実施要領(学会ホームページにも掲載予定)をご覧ください。

共催シンポジウムの導入にあたり、領域代表から以下の提案がなされ、承認された。「領域7への共催シンポジウムの提案は、一般のシンポジウムの提案と同様に、領域7のメーリングリストに開示して議論する。従来一般のシンポジウムの提案の実施が難しくなら

ないようにすること、および、領域7において複数の共催シンポジウムの実施が難しいと予想されること（物理学会全体で原則5件）、を考慮して、メーリングリストにおける議論をもとに、領域代表、副代表、運営委員がさらに協議して、必要な場合はシンポジウムの提案に順位付けをする。その上で、領域委員会に領域7からのシンポジウムの提案を行なう。」

9. 関連国際会議・シンポジウムの紹介

東北大金研 佐々木 孝彦 先生より

会議: 金研ワークショップ 2017

多自由度・多階層性が協奏する物質材料システムの科学

Multi-scale materials science out of multi-degrees of freedom physics

日程: 2017年12月4日(月)13:30 - 6日(水)午後

場所: 東北大学金属材料研究所講堂 (口頭講演)

(秋保 (予定): ポスター, ディスカッションセッション)

場所: 東北大学金属材料研究所、秋保 (宮城県、仙台市)

10. 次回大会について

第73回年次大会

東京理科大(野田キャンパス)

2018年3月22日(木)~25日(日)

10. その他

Q. ポスター賞を設けて領域 7 の発表件数はどうなっているか？

A. 下記の通りで、口頭発表件数は減っています。発表の総数は、一昨年秋より多いですが、昨年秋よりは減少しています。ただし、今回は、大会後、領域 7 に密接に関連した大規模な国際会議 ISCOM2017(5 泊)が行われるため、長期連泊を避けるなどの理由で、口頭発表者あるいは参加者自体が少なかった可能性もあると考えています。

年度	申込件数	口頭件数	ポスター件数
2017 秋	140	104	36
2017 春	125	123	2 (ポスターは無いのですが申し込み時の記録です)
2016 秋	155	119	36
2016 春	136	136	0
2015 秋	134	134	0
2015 春	137	137	0